

優秀賞

タイトル FLAT HIMONYA 409

タイプ 持家共同建

構造 鉄筋コンクリート造

講評

黒板仕上げのコア回り壁が大変面白いが、寄りかかりにくい?また白墨粉の飛散や他への汚れはどう対処するのだろうか。プランそのものは合理的で、リフォームによって明るく、使いやすくなったことがよくわかる。

リフォーム前後の写真



(A) 改装前の玄関



(B) 改装前のリビング



(C) リビングコーナー



(G) 黒板壁



(G) 黒板壁の一部を開くと、洗面所、ユーティリティスペース



(H) 洗面所



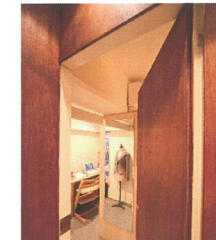
(D) リビングの素材がエントランスまで続く



(E) エントランスからテラス窓までつながる奥行きのあるダイニングとリビング



(J) ラワン合板壁の一部を切り込んで家具、又はキッチンスペースとなっている



(K) 壁の一部を開くと寝室

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/特筆すべき住宅性能向上の内容など

夫婦と子供2人のための築33年のマンションリノベーション。
既存のプランはL字型に伸びる廊下にリビング・ダイニングを含む各室が取り付くレイアウトで、廊下の閉塞感が強かった。また全体面積の割にはリビングが小さく、北側にある55㎡のルーフトバルコニーへ出ることのできる部屋はリビングではなく寝室だった。
このリノベーションでは廊下の閉塞感をなくし、リビングをルーフトバルコニーへと連続した開放的なスペースとなるように平面計画をすすめた。既存の和室2室を撤去し、バルコニーに面する部分をリビングとし、もともとリビングがあった部分はアトリエと主寝室とした。また平面の中央に位置する水周りのコアを黒板塗装で仕上げ、リビングが外壁、寝室に面する壁と玄関から続く廊下の片側の壁はすべてラワン合板オスマカラー仕

上げとして、大きな空間の中央に黒板のヴォリュームが挿入されたように見え、玄関に入った時点で廊下ではなく、リビングを含む大きな空間の一角に入ってきたように感じられるようにした。
高さ2.4m、長さ12mの黒板壁は子供達の落書きや勉強だけでなく、家族のメモがわりにも使用している。夫は朝必ずスタディでメールをチェックしてから仕事に出かけるので、忘れそうな伝言があれば、その扉の前にメッセージを書いたり、キッチンの前にはその日の買い物リストや、いつ家で夕食を食べるかなど、それぞれのスケジュールを書いたりしている。この黒板はコミュニケーションボードとしての役割を果たしている。

性能向上の特性
玄関まで連続する広いリビング。

特に配慮した住宅性能
メッセージが残せる大きな黒板ボックス。リビングから各個室への壁はなるべくフラットとし、扉は枠なし、取っ手も埋め込みとした。

データ

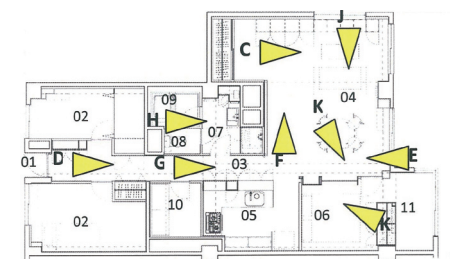
所在地	東京都目黒区	築後年数	33年	施工期間	60 日間
該当工事面積	96 ㎡/総工事床面積	96 ㎡	該当部分工事費	1,200 万円/総工事費	1,200 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満: 2 人/65歳以上:	人/15歳未満:	2 人/ベッド:		
設計会社	(株)キー・オペレーション	担当者	小山 光		
施工会社	男鹿建業	担当者	斉藤 祥崇		

リフォーム前



- 01. 玄関
- 02. 子供部屋
- 03. ホール
- 04. リビング/ダイニング
- 05. キッチン
- 06. 和室
- 07. 洗面所/ユーティリティ
- 08. トイレ
- 09. 浴室
- 10. 納戸

リフォーム後



- 01. 玄関
- 02. 子供部屋
- 03. ホール
- 04. リビング/ダイニング
- 05. キッチン
- 06. 主寝室
- 07. 洗面所
- 08. トイレ
- 09. 浴室
- 10. スタディ
- 11. アトリエ